

DX推進ハンドブック（概要版）

高知県中小企業等デジタル化促進モデル普及事業



2022

はじめに

中小企業デジタル化促進モデル事業は、デジタル化に取り組む意欲を持つ中小企業に対して、「デジタル化計画の策定支援」「デジタル化計画の実行支援」「社内の人材育成」までを一貫して行い、県内の中小企業がデジタル化に取り組むきっかけとなるモデル事例を創出し、その成果と過程を県内に広く普及することにより県内企業のデジタル化の促進につなげることを目的に実施しました。

令和2年12月上旬から令和4年3月末までの間、県内企業から選抜されたモデル企業5社がデジタル化に取り組んだ結果、高知県の未来を担うデジタル化促進モデルが複数誕生しました。

本冊子は、モデル企業5社の取り組みの過程や、取り組みにより得られた効果などを検証・整理した事例集「DX推進ハンドブック」の第二版です。モデル企業各社が令和4年4月から令和5年3月末までの間、デジタル化の取り組みをさらに重ねた成果や新たなチャレンジなどを追記して、一層充実した内容になっています。



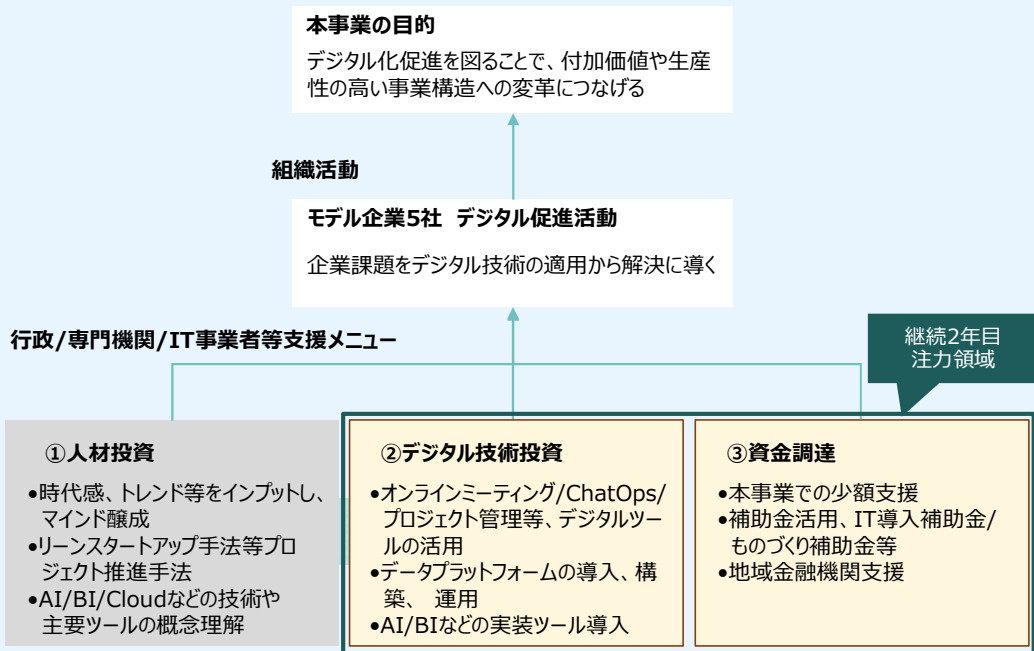
高知県デジタル化促進モデル 全体像



本事業では、デジタル化促進により組織を変革していく活動を推進するため、3つの支援メニューを準備しており、2年目は「デジタル技術投資」「資金調達」に注力した活動を展開しました。これらの支援と組織活動を組み合わせたプロジェクトを、高知県内のモデル企業5社と継続実施をしました。

DX Digital Transformation

デジタルテクノロジーを活用して、既存のビジネスを変革したり、新たなビジネスを生み出し、企業の競争力を高めること



高知県デジタル化促進モデル

DXモデル

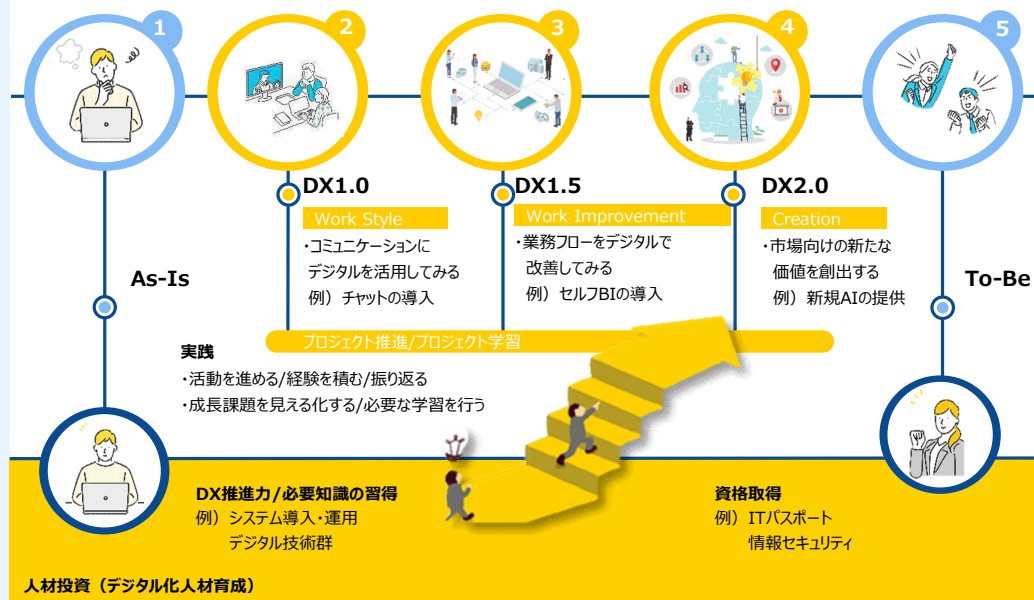
DX活動プロセス

高知県デジタル化促進モデル

DXモデル

DXは一朝一夕に実現されるものではなく、また一足飛びにも実現できません。DXのビジョンは大きく、プロセスは堅実に進める必要があります。継続2年目も以下のモデルを活用し、ステージアップを行いました。

デジタル技術投資/資金調達



DX活動プロセス

上記のDXモデルを堅実に進めていくための活動プロセスを、モデル企業の取り組みから5つのStepに整理しました。



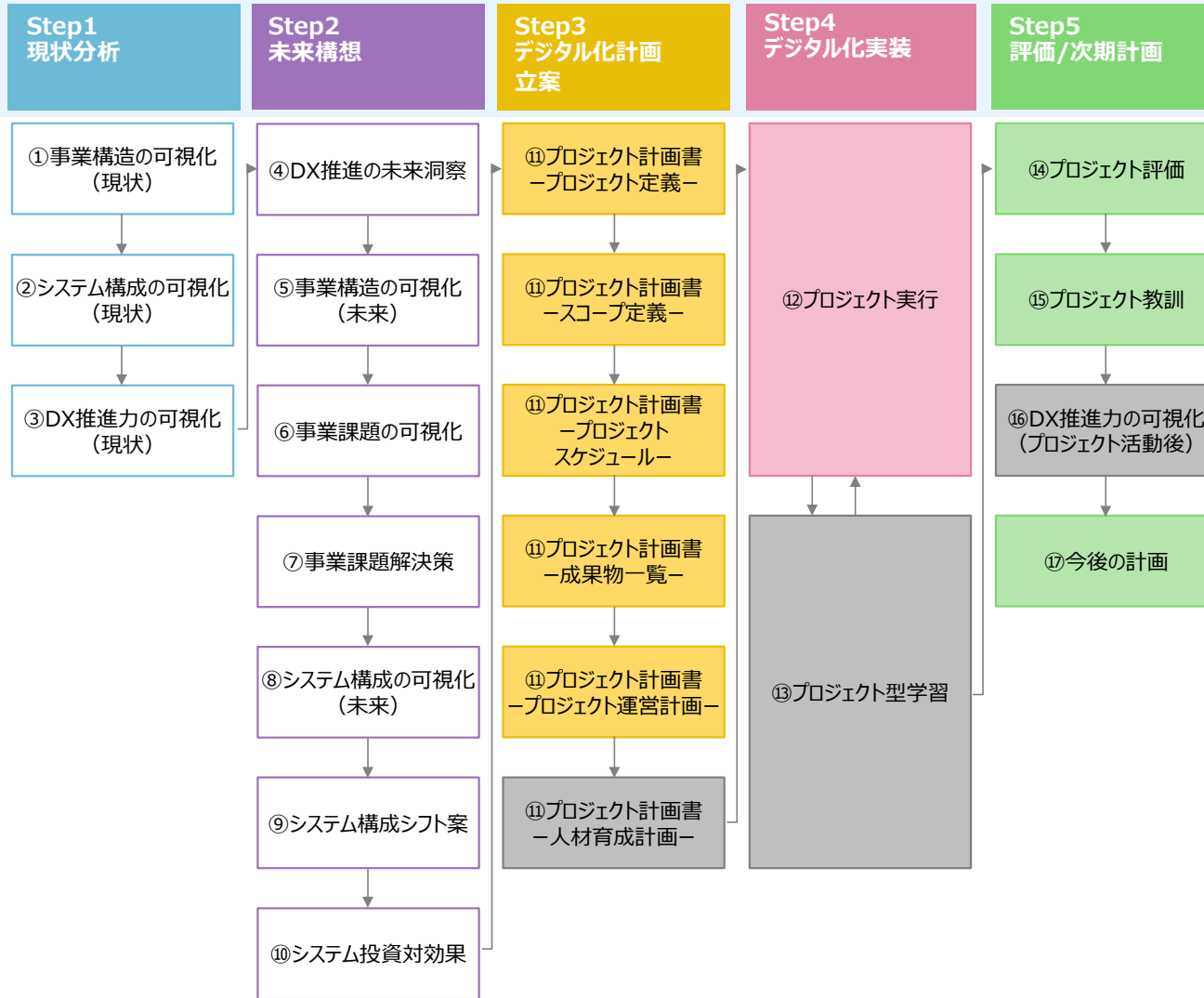
※各プロセスで具体的に実施することは、本体資料に詳しく掲載しています。

高知県デジタル化促進モデル 全体像

高知県デジタル化促進モデル（5Step/17Action）

モデル企業の取り組みをトレースし、5つのStepを更に17のActionに細分化してプロセス化しています。
 継続2年目は、⑪ ⑫ ⑭⑮⑰ の箇所に焦点化した活動をモデル企業5社にて行いました。

DX活動プロセス



DX実践ポイント

現代はVUCA時代と言われています。つまり変化が早く、不確実性が高く、複雑で、曖昧な時代です。
 そしてボーダーレス化が進みます。先を見据える力と同じくらい**“実行する力”**の重要性が高まっています。
 データやAIで差別化できるのは、今だけです。パソコンもExcelもインターネットもスマートフォンも、すでに多くの企業が使っています。アクションし続けることに挑戦してください。

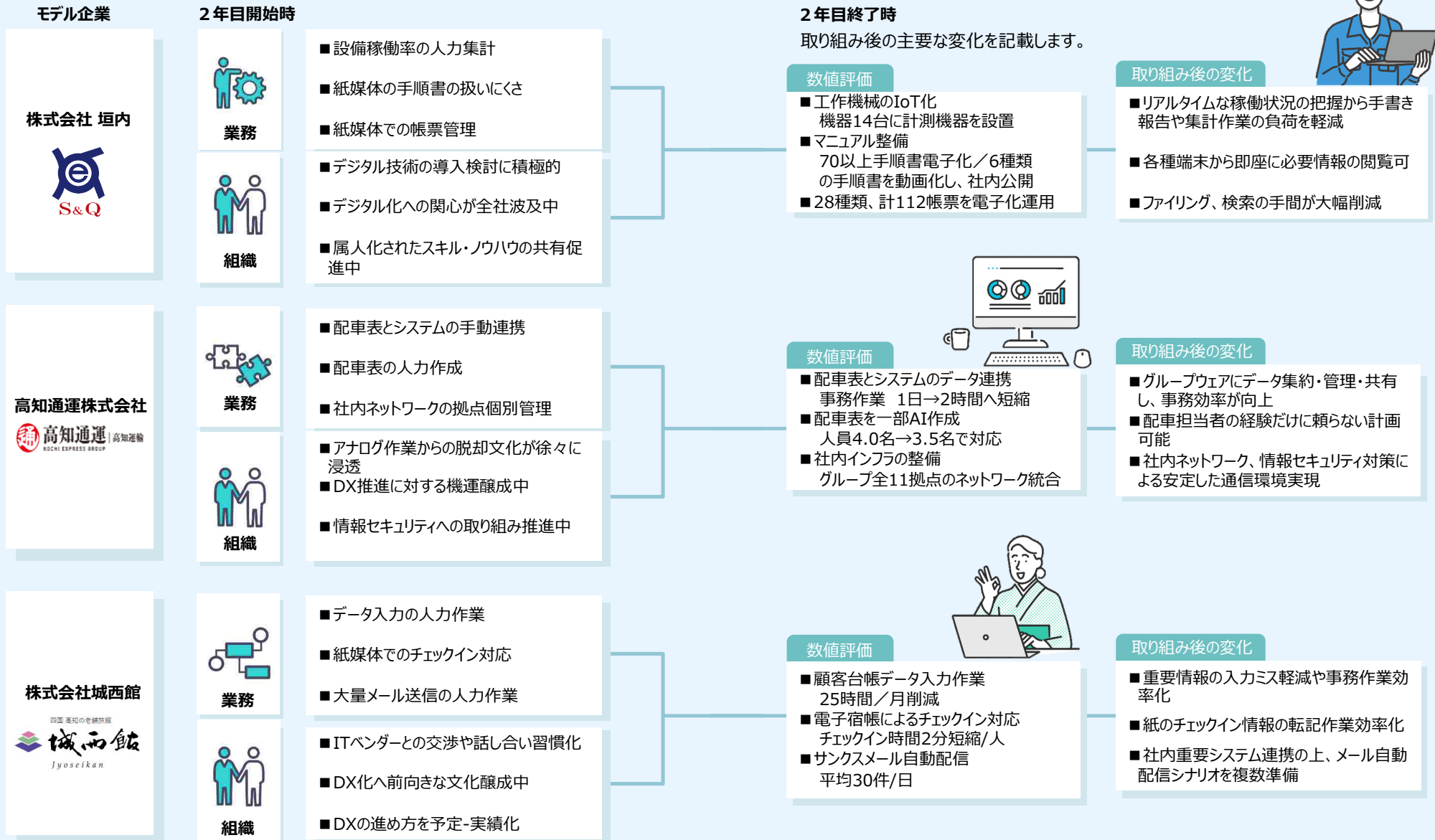
Act-First

- DXは段階的に推進する
 - As-Is 現状
 - DX1.0 Work Style コミュニケーション変革
 - DX1.5 Work Improvement 業務変革
 - DX2.0 Creation 新しい価値の創出
 - To-Be ありたい姿
- データを知る/キレイな（デジタル）データについての重要性を認識する
 - 正しく、欠損の少ないデータを持っているからデータ分析やAI適用で成果が出る
 - 自社データは貴重だが、自社だけでは限界があることを知り、他社、パートナー、オープンデータ等を活用する
- テクノロジーを知る/AIを知る（AIはトレンドではなくメインストリーム）
 - データを活かすのがテクノロジー データを使った価値創出 ≡ AIを活用した価値創出
 - 価値創出は「非属人化」、「省力化」、「品質向上」の3点に大別される
- 課題ドリブン、仮説思考、ドメイン知識ありき
 - 技術、データではなく、課題から着想する
 - 課題毎にData、Information、Value、Achievement の4つを抽出する
 - 特定課題一つを検討するのではなく、課題を一覧化し、ROIの高い課題に絞り込んでいく
- 人材の育成（概念理解の重要性）
 - 最低でもひとり、主要テクノロジーの概念を理解している担当者の育成は必須
 - ベンダーコントロールをしっかりと実施するためにも知識習得が欠かせない
- 伴走してくれるパートナーを見つける
 - あらゆる意味でパートナーは重要 技術的な活用ポイントや未知のデータは山ほどあり、技術やツールはもちろん、データそのものにも精通するメンターの存在が必要

※各プロセスで具体的に実施することは、本体資料に詳しく掲載しています。

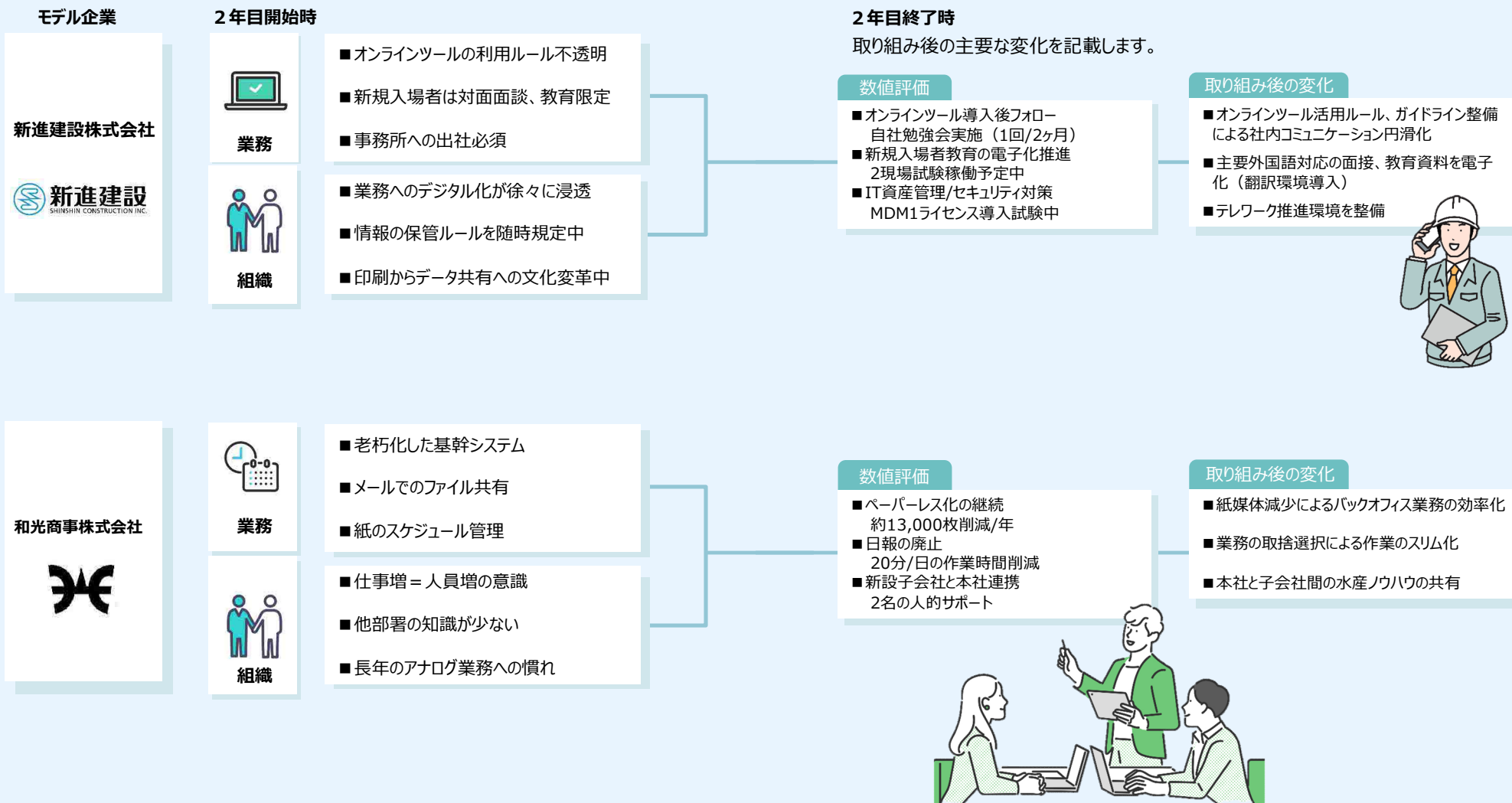
モデル企業 5 社の主要活動成果①

DX活動プロセスの5つのStep/17のActionを実際に実施したモデル企業の主要成果を以下に示します。



モデル企業 5 社の主要活動成果①

DX活動プロセスの5つのStep/17のActionを実際に実施したモデル企業の主要成果を以下に示します。



※各モデル企業の具体的な取り組み内容は、本体資料に詳しく掲載しています。



株式会社垣内
代表取締役社長
垣内大輔

メッセージ

デジタル技術は日々進歩しており、取っ付きにくさを感じるかもしれませんが、具体的な行動無しには何も始まりません。当社の取組も2年目を終了しますが、想定以上に進捗したプロジェクトもあれば、道半ばのものもあります。県内企業間で様々な事例の情報共有を進め、共にデジタル化を進めてまいりましょう！



高知通運株式会社
代表取締役
曾志崎 雅也

メッセージ

2年前の当社は、リモートの「リ」の字に対応するため、パソコン用カメラやマイクを大型家電店に買いに走り、事務所はランケーブルが絡み合うDXを語るような会社ではありませんでした。日常業務を抱えながら富士通様に導かれるままに必死に新しい言葉や資料の作成に励み、今やmicrosoft365を入れた最新機種のノートパソコンと携帯のテザリングを使い、議事録をとりながらリモート参加者を交えて社内会議ができるような会社になりました。改めてDX化の結果を問われますと回答に窮する処もありますが、デジタル化については少々語れるインフラと人材がずいぶん育ったと報告できます。2年間の県のサポートと直接ご指導いただいた皆様にお礼申し上げますとともに社内でも動き出したデジタル化は自分たちで進めていけると確信します。



株式会社城西館
常務取締役
藤本 幸太郎

メッセージ

世の中ではさらに「デジタル化」「DX」が進みました。当社では、業務を効率化し、顧客への価値向上を目的として、さまざまな課題に取り組みました。各プロジェクトに取り組み、今では現場になくてはならないツールも導入することができました。まだまだ課題は山積みで、旅館ホテル業界では人手不足の問題が発生してきました。「予測不能な時代」を乗り越えるためには、少しずつでもいいので、変化していく組織を作り上げていく気概が大切です。



新進建設株式会社
代表取締役
小川裕司

メッセージ

業務の課題解決をデジタル化で行うためには、全社員を巻き込んで取り組むことが重要です。また、デジタル化を継続するには推進リーダーの育成が不可欠であり、課題解決の成否を分けるのは社内のコミュニケーションであると思います。



和光商事株式会社
代表取締役
吉村 篤司

メッセージ

デジタル化への新しい挑戦も2年になりました。1年目は全社員の意識を変える事を重要な課題として進めてきました。2年目は全社員のデジタル化に対する意識が変わり、結果として現れました。挑戦する事で問題発見力に繋がり、その問題の解決方法を思案することに全社員が向き合えるようになってきた事が、弊社にとって大きな財産になりました。2年間関係者の皆様には、デジタル化のご支援賜りまして誠にありがとうございました。まだ一歩踏み出したレベルですが、着実に全社員のレベルアップに取り組んでいます。

